

#オオイタ
レキシ旅

2024

大分市内にあるとおきの
文化財の魅力を
お届けします！

—第5弾—

高崎山の
サル生息地

知っているようで知らない、高崎山
市の誇る観光名所、高崎山自然動物園。皆さんは、高崎山のサルとその生息地が、国の天然記念物に指定されている貴重な文化財だということをご存じですか？天然記念物といえばトキやコウノトリなどの絶滅危惧種を思い浮かべますが、それだけではありません。日本の宝として後世に残したい、動物や自然環境も指定されるのです。高崎山のサルとその生息地は、都市の近郊としては珍しく野生のニホンザルが生息しており、貴重な動物・自然環境であるという理由で昭和28年に天然記念物に指定されました。現在、高崎山自然動物園では2つの群れが交替でサル寄せ場へ現れ、園内の至る所でのびのびと過ごすサルの姿が見られます。また、スタッフの解説も楽しく、一頭一頭を身近に感じられること間違いなし。これを機に改めて高崎山を訪れてみてはいかがでしょうか。



Point

高崎山のニホンザルは、江戸時代の歴史書に「古より猿多し」と記され、古くから生息していたことが分かります。また、高崎山は海に突き出た急な岩壁から「四極山」とも呼ばれ、今もなお大分の名所です。

Access

所在地：神崎3098-1
※大分駅前からバスで約25分
「高崎山」バス停下車
大分駅から車で約20分



文化財課 ☎578-7546



Next
Journey!
次回は
後藤家住宅
です。

Q市報クイズ

○に入る言葉は何か？

男女共同参画センター(たびねす)
公式キャラクターの名前は？

「○○○○○」

ヒントは、この市報の中にあります。

スマホか
はがきで
応募!

正解者の中から抽選で、市美術館特別展「笠岡市立竹喬美術館名品展 うつりゆく自然を描く 小野竹喬の世界」ペアチケットを3人にプレゼント! ※当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

8ページで
特別展を紹介
しています

応募方法

スマホ 右の二次元コードから応募してください。

はがき はがきに、答え、住所、氏名、年齢、電話番号、市報の感想を記入し、9月15日(日)〈消印有効〉までに広聴広報課(〒870-8504 荷場町2-31 ☎537-5713)へ。



8月号

「市報クイズ」の
答え

○○○○○に入る鶴崎踊の歌詞は？

「来ませ (見) (せ) (ま) (し) (よ) 鶴崎踊
いずれ劣らぬ花ばかり」

表紙は大分豊府高等学校演劇部、通称「豊劇」の皆さん! 九州や全国の大会でも受賞歴があり、演出や照明なども部員が担当しているそうです😊✨



9月22日(日)に、男女共同参画センター(たびねす)開所10周年記念創作劇を披露! ぜひご覧ください🎵

詳しくは2ページへ

迫真の演技! ▶



市民図書館からのお知らせ

①図書館でお月見 無料

天体講座と屋上での天体観察
日時：9月14日(土) 午後7時～9時
場所：市民図書館2階 会議室
対象：市内小中学生とその保護者15組
(要事前申込み・先着順)

②中学生 ビブリオバトル大会 無料

参加者がおすすめの本を紹介し、一番読みたくなった本を投票で決めます。
日時：9月29日(日) 午前10時～11時
場所：市民図書館2階
おはなしのへや
対象：市内中学生

申込み：直接または電話で、①は9月1日(日)から、②は9月1日(日)～13日(金)に市民図書館へ。

市民図書館
☎576-8241



知ってほしい、この名言
大切にしたい言葉2
ピンチをチャンスに変える名言
白坂洋一…監修
汐文社



ローカル番組でおなじみの作者が、雑誌に連載していたものをまとめたエッセイ集です。県内の駅を訪ね歩き、出会った人々のエピソードや地域の歴史を、美しい水彩画とともに味わうことができます。どこか懐かし、心が温かくなる郷土の本です。

おおいた駅物語
二宮圭一…文・絵
大銀経済経営研究所

人権・同和教育シリーズ

549

人の生き方を考える

誰もがその人らしく



半年ほど前から父に認知症の傾向が表れてきました。現実を受け入れられないわたしは「なぜ父が…。きつと何かの間違いだ」と自分に言い聞かせていました。次第に家族の名前を間違えるなど傾向は明らかになってきました。そのたびに「しつかりしろよ」と強く言いながらも「何かあつてからでは…」という心配と「周りに迷惑はかけられない」という思いから、父が一人で遠くへ行かないよう気を付けていました。

一緒に食べて」とお土産を渡されました。恐縮するわたしに隣人は「実は、家族に一人旅は止められたんです。歳を取ったからか、以前と比べるとできなくなったり、時間がかかったりすることも増えたので。でも、行つてよかったです。人と関わったことで、元気をもらい、また何かをやってみたいという気持ち湧いてきました。だから」と言うのです。はつらつとした隣人をうらやましく思っているわたしに「そう言えば、この前お父さんも『旅行に行きたいなあ。でも、今の自分の状態や家族のことを思うと…』と言っていましたよ」と教えてくれ、隣人は帰っていました。

父の思いを知り、お土産に喜ぶ父を見ながらわたしは、本人の気持ちを聞くこともなく、自分の心配や不安ばかりを解消しようとしていたことに気付いたのです。

わたしが久しぶりに散歩に誘うと父は「よし、行こう」とうれしそうに言いました。散歩中の父はすれ違う人にあいさつをしたり、わたしに昔の話を聞かせてくれたりと、いっつもなく元気な様子でした。

誰もが生きがいを持って生活するためには、一人ひとりが相手の思いや願いを理解し、尊重することが大切ではないでしょうか。